

一つの大学

平和を希求する精神
新たなる知の創造
豊かな人間性を培う教育
地域社会・国際社会との共存
絶えざる自己変革



■学長からの挨拶



広島大学は、世界で最初の被ばく都市である
広島に開学したがゆえに、1975年、国立
大学では最初に平和科学研究センターを設置す
るなど、平和科学研究の充実のための取り組み
を進めています。

社会の中での国際化、グローバル化が進み、
科学技術の高度化が進展する中で、豊かな人間
性を備え、バランスの取れた人材を育成するた
めには、大学における共通科目としての教養教
育は益々重要なものとなっています。広島大学
では、これまでにも教養教育に平和に関する授
業を取り入れていましたが、平成20年度から
は正式に教養教育の中の「平和学」として、そ
の位置付けを明確にし、学生みんなで平和につ
いて考えていただきたいと願っています。

学長 浅原 利正
(表紙揮毫含む)



平和を希求する精神

自由で平和な

【平和とは？】

広島大学で「心に平和の砦を築く」^{とりで}

戦後の広島は、原爆を起点として「平和都市ヒロシマ」を標榜し、平和行政に取り組みました。前身校の多くが灰燼に帰した新制広島大学も、初代学長森戸辰男が制定した建学の精神「自由で平和な一つの大学」のもと、大学の色・緑に象徴されるように復興を遂げたのでした。森戸学長は、ユネスコ憲章の「心に平和の砦を築く」という言葉を好んで使いました。

「平和」という言葉は戦争を正当化するためにも使われる

では、「平和」とは一体どういった状況を指すのでしょうか。そもそも「平和」という言葉それ自体は、文化を問わず肯定的意味合いを持つ言葉でありながら、時として、戦争を正当化するという機能をも果たしました。例えば、戦前の日本の場合、「平和」は「東亜」・「東洋」や「秩序」という言葉と結びつけられ、多くの若者が戦争に動員されたのです。しかし、こういった現象は、何も戦前の日本だけに限ったことではなく、他文化においても共通する現象であり、現在も繰り返さ

れています。

つまり、「平和」なる語は、極めて多義的で多機能性を有する言葉なのです。

「平和」＝「戦争がない状態」？

それでも私達は「平和」という言葉から、戦争といった暴力がなく、穏やかで静かな日常を連想します。確かに、戦争の不在は「平和」であるかもしれませんが。その意味からすれば、日本は「平和」な状況です。しかし、この日本でさえも、様々な社会的格差・差別が存在しています。また、発展途上国においては、貧困、飢餓、不平等、政治的抑圧が存在し、先

進国との間には著しい格差が生じています。例えば、平均寿命が50歳にも満たない途上国は少なくないのです。そういった様々な格差を私達はどのように考えるべきなのでしょうか。どのような状況にあることが、「平和」なのでしょうか。

広島大学に入学した皆さんには、平和に関する施設を見学してもらい、平和とは何かを考えるきっかけとしてほしいと私達は願っています。

広島大学の学生である貴方は、心にもどのような平和の砦を築くのでしょうか。

【平和に関するモニュメント例】（※以下のモニュメントは、見学実習の対象モニュメントの一例です。）

1. 平和記念資料館（広島市）



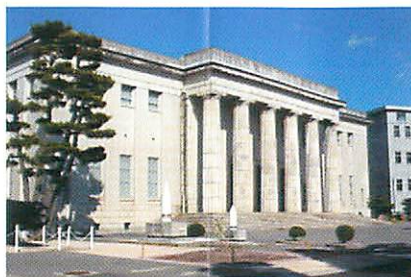
公式URL <http://www.pcf.city.hiroshima.jp/>

2. 大和ミュージアム（呉市）



公式URL <http://yamato.kure-city.jp/index.html>

3. 旧海軍兵学校教育参考館（江田島市）



公式URL <http://www.dii.jda.go.jp/msdf/onemss/index.htm>

4. 毒ガス資料館（竹原市）



竹原市観光情報
URL http://www.city.takehara.hiroshima.jp/takehararoman/spot/s_poisongas.html
※公式ページなし

5. ホロコースト記念館（福山市）



公式URL <http://www.urban.ne.jp/home/hecjpn/>